

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A小学校 第6学年 3時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、『強み』を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする』を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたりしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問で、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図1）。また、児童の振り返りシートには、「グループのみんながたくさん『強み』を書ってくれたので嬉しかった」「友達の『強み』や自分の『強み』をさらに知ることができた。グループの友達の『強み』を知ることは大切だと感じた」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば

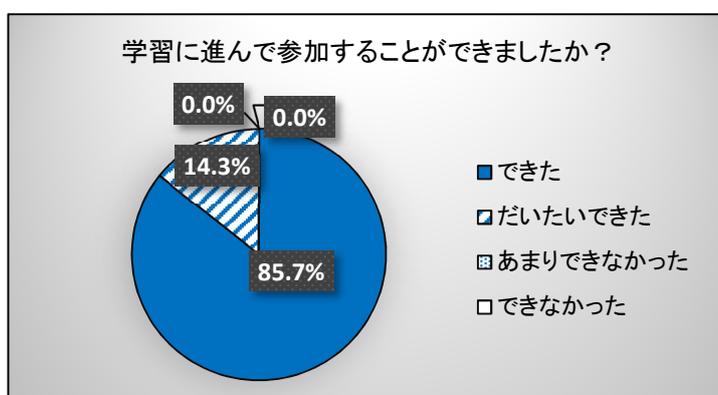


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

大丈夫！」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

今後も、児童が進んで学習に参加することができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「『強み』を、友達がウェブに書いてくれたので、自分の『強み』が分かって良かった」「『強み』を伝え合ったら、みんな『強み』がちがって良いところがあった。自分も良いところがあった」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェブ」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

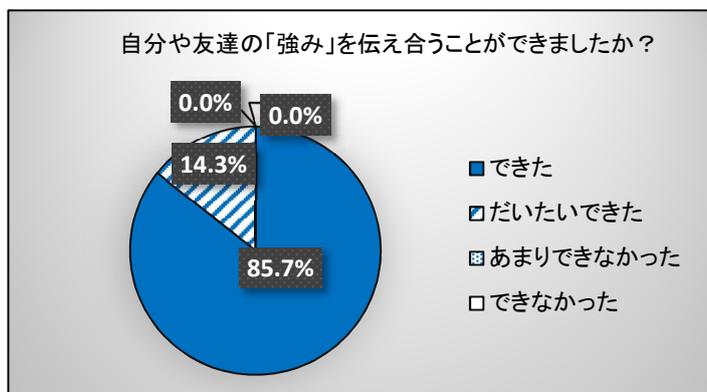


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は90.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は9.5%でした（図3）。また、児童の振り返りシートには、「自分の『強み』を他の人から書いて教えてもらったから、どんな『強み』があるのか分かった」「自分が見付けた『強み』と友達が見付けてくれた『強み』を知ることができた。自信がもてた」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェブ」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

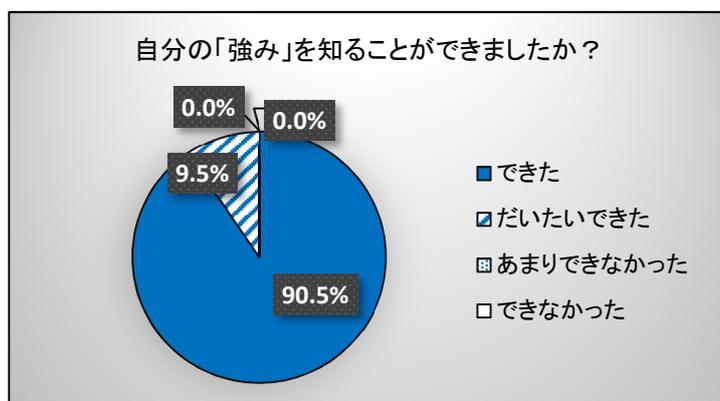


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図4）。また、児童の振り返りシートには、「自分だけじゃなくて、いろいろな人の『強み』を知ることができた」「みんな『強み』をもってすごいなあと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

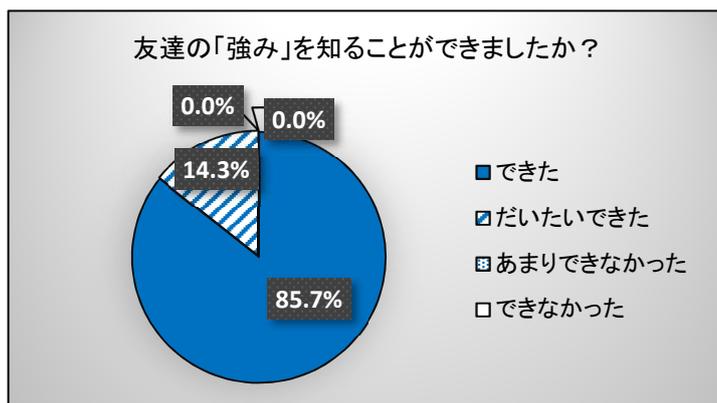


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合は81.0%、「だいたい思った」と回答した児童の割合は19.0%でした（図5）。また、児童の振り返りシートには、「これからも自分の『強み』を生かしてがんばっていきたい」「いろいろな『強み』があったから、これからはリュックサックに入れた『強み』を忘れないで生かしていききたい」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、今後、自分の「強み」を生かしていこうと思っていることが分かりました。

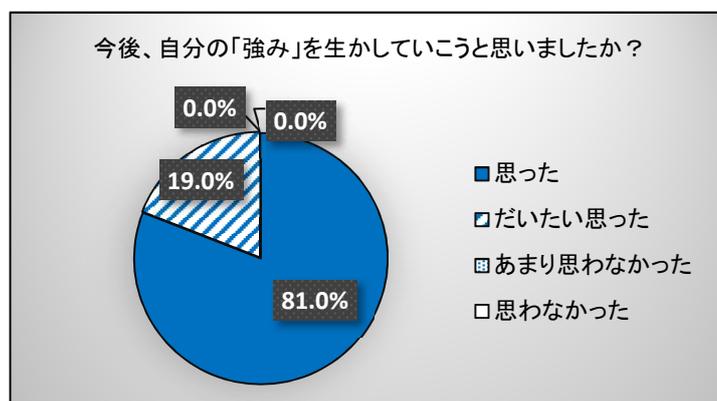


図5 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思いましたがについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、3時目の授業において、児童は進んで授業に参加し、自分や友達の「強み」を伝え合い、自分や友達の「強み」を知ったり、自分の「強み」を生かしていこうと思ったりすることができました。特に、2時目の「自分の『強み』を生かすことができましたか」と3時目の「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合を比較すると、3時目で19.1ポイント増加していました。その理由として、3時目の交流活動で、これまでに見付けた「強み」や新たに友達から見付けてもらった「強み」を整理して視覚化したことによって、自分の「強み」がより明確になり、自信や活用への見通しにつながったためであると考えます。これらのことから、今後も、様々な教育活動と関連付けながら、自分や友達の「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の「強み」を見付け、「強み」の生かし方を考えることができるような取組を継続する必要があると考えます。

◆ 3時間の授業を通じた考察（「振り返りシート」の結果と記述等から）

3時間の授業の振り返りシートに共通する質問項目①「学習に進んで参加することができましたか」、③「自分の『強み』を知ることができましたか」、④「友達の『強み』を知ることができましたか」から考察します。

①「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は増えていることが分かりました（図6）。その理由として、学習内容が児童の実態に合っていたこと、ウェビングマップを用いて「強み」を見付ける交流活動を繰り返し行ったため、見通しをもって安心して活動できたことなどが考えられます。

③「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は増えており、④「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は、2、3時目には85%を超えました（図7）。また、3時間の学習後の感想には、「1番最初に『強み』の勉強をしたときに、本当に自分の『強み』を知ったり生かしたりすることができるのかなあと思った。でも『強み』の勉強をしていくうちに自信が付いた」「1時目は『強み』が何だかよく分からなかった。でも、3時間を通して友達の『強み』を見付けたり友達から『強み』を見付けてもらったりするうちに、自分のことがよく分かり楽しくなった」等の記述が見られました。これらのことから、3時間を通して「強み」に着目した交流活動に取り組み、友達から見付けてもらった「強み」を参考にして自分の「強み」について考えたことにより、自他の「強み」に気付きやすくなり、「強み」を知ることにつながったと考えます。

以上のことから、「強み」に着目した交流活動を繰り返し行う「『強み』に関する活動プログラム」は、児童が互いに自他のよさを見付け、認め合うことに有効であったと考えます。

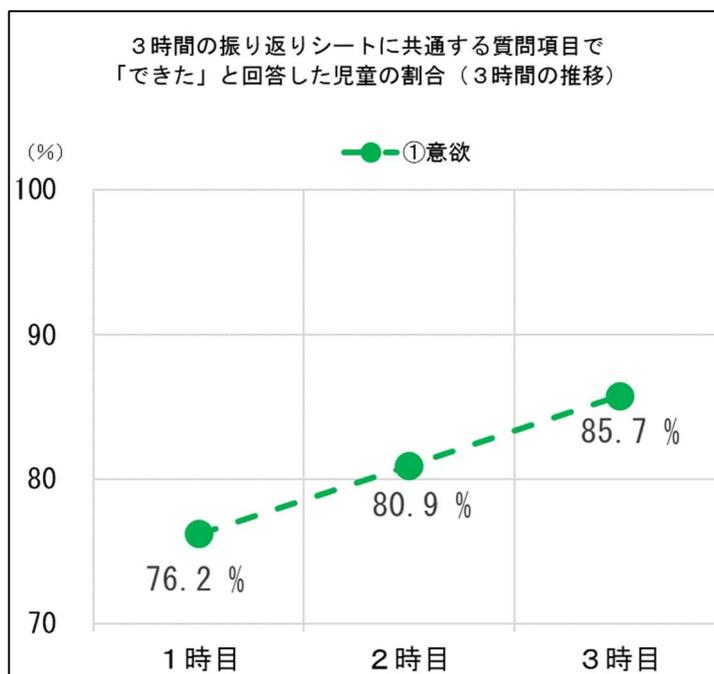


図6 共通する質問項目①についてのアンケート結果（振り返りシートより）

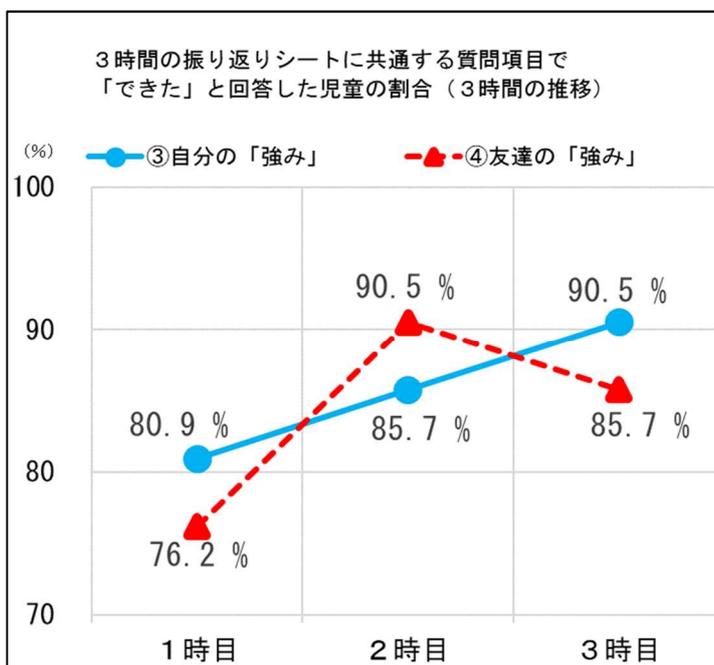


図7 共通する質問項目（③、④）についてのアンケート結果（振り返りシートより）

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B小学校 第6学年 3時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、『強み』を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする』を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたりしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問で、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は91.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は8.1%でした(図1)。また、児童の振り返りシートには、「今日の活動で、みんなの『強み』をいっぱい見付けることができ、みんなに『強み』をいっぱい見付けてもらえてうれしかった」「他の人からいろいろなアイデアをもらって、自分でもいろいろなアイデアを思い付いて書くことができた」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等に進んで参加することができ

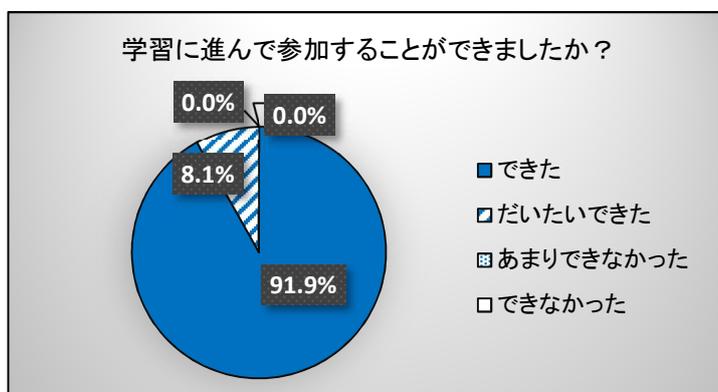


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果 (振り返りシートより)

ていたと考えます。今後も児童が進んで学習に参加することができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は86.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は13.5%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「グループの友達が自分の書いた『強み』を認めてくれたときに、書いて良かったなとうれしくなった。また、グループの友達から教えてもらった『強み』を生かしたらいいと思う」「自分の『強み』とその『強み』の生かし方を教えてもらったので、これからその『強み』を生かしてがんばっていきたい」等の記述が見られました。

これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

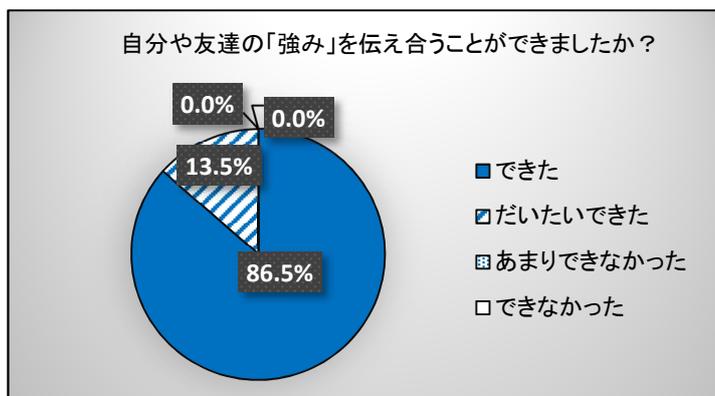


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は83.8%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は16.2%でした（図3）。また、児童の振り返りシートには、「自分が思っている『強み』だけでなく、自分が知らない『強み』もあったので良かった。二つの『強み』を選んだので、困ったときに使いたい」「自分の『強み』だと思ったこと以外にもそれにつながる『強み』が見付かったので良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

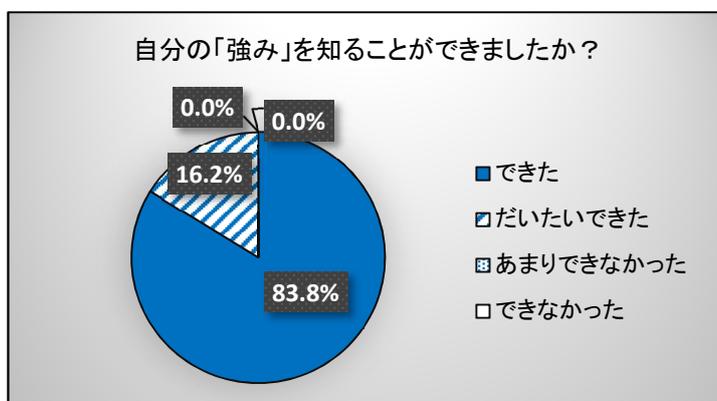


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は86.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は13.5%でした（図4）。また、児童の振り返りシートには、「友達の『強み』を知って、人それぞれ『強み』がちがうということが改めて分かったのが良かった」「友達の『強み』を書くことができたし、友達の『強み』を知ることができたので良かった」という記述が見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

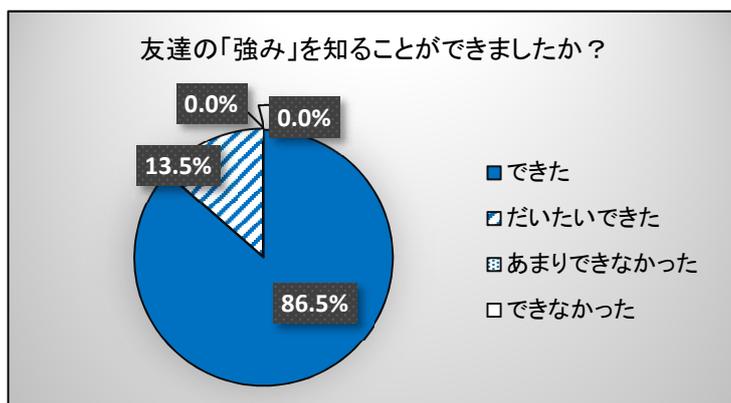


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合は75.7%、「だいたい思った」と回答した児童の割合は24.3%でした（図5）。また、振り返りシートには、「自分の『強み』を知って、今の自分にできることが分かった。これから自分の『強み』を生かしていこうと思う」「グループのみんながいっぱい『強み』を見付けてくれて、その『強み』をいろいろなところで生かせるらいいなと思った」「『強み』はだれにでも必ずあるから、その『強み』を生かすことがとても大切だと思った。自分の『強み』を生かしてがんばりたい」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「お宝ウェビング」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、今後、自分の「強み」を生かしていこうと思っていることが分かりました。

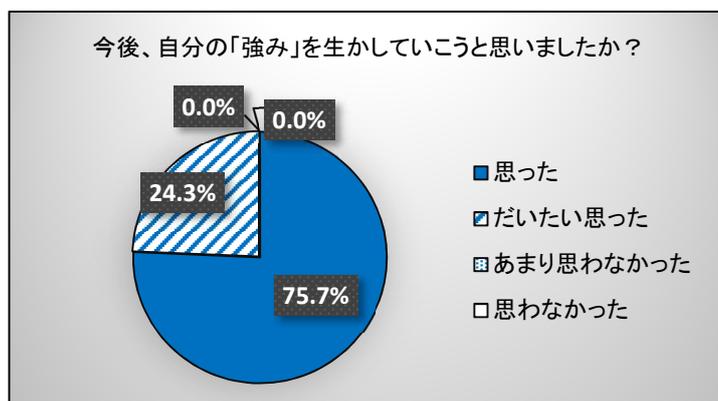


図5 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果から、3時目の授業において、児童は進んで授業に参加し、自分や友達の「強み」を伝え合い、自分や友達の「強み」を知ったり自分の「強み」を生かしていこうと思ったりすることが分かりました。また、2時目の「自分の『強み』を生かすことができると思いましたが」の質問に対して「思った」と回答した児童の割合（52.6%）と、3時目の「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して「思った」と回答した児童の割合（75.7%）を比較すると、23.1ポイント増加していました。その理由として、3時目の交流活動で、これまでに見付けた「強み」や新たに友達から見付けてもらった「強み」を整理して視覚化したことによって、自分の「強み」がより明確になり、活

用への見通しや自信につながったためであると考えます。これらのことから、今後も、様々な教育活動と関連付けながら、自分や友達の「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の「強み」を見付け、「強み」の生かし方を考えたりすることができるような取組を継続する必要があると考えます。

◆ 3時間の授業を通じた考察（「振り返りシート」の結果と記述等から）

3時間の授業の振り返りシートに共通する質問項目①「学習に進んで参加することができましたか」、③「自分の『強み』を知ることができましたか」、④「友達の『強み』を知ることができましたか」から考察します。

①「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は増えていることが分かりました（図6）。その理由として、学習内容が児童の実態に合っていたこと、ウェビングマップを用いて「強み」を見付ける交流活動を繰り返し行ったため、見通しをもって安心して活動できたことなどが考えられます。

③「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85%前後で推移し、④「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は3時目に約5ポイント減少しました（図7）。このように数値は伸びなかったものの、ねらいが活用レベルまで深まる3時目において、「できた」と回答した児童が85%を超えたことは、3時間の学習を積み重ねた成果であると考えます。また、全ての時間において、友達の「強み」を知ることができた児童の割合が、自分の「強み」を知ることができた児童の割合を上回ることが分かりました（図7）。さらに、3時間の学習後の感想には、「この3時間は、とても大切な時間になったと思う。今後、見付けた『強み』を生かしたり他の『強み』を見付けたりしたい」「3時間の学習を通して、友達から自分が気付かなかった『強み』を見付けてもらってうれしかった。少し自分に自信がもてた」等の記述が見られました。これらのことから、3時間を通して「強み」に着目した交流活動に取り組み、友達から見付けてもらった「強み」を参考にして自分の「強み」について考えたことにより、自他の「強み」に気付きやすくなり、「強み」を知ることにつながったと考えます。

以上のことから、「強み」に着目した交流活動を繰り返し行う『強み』に関する活動プログラムは、児童が互いに自他のよさを見付け、認め合うことに有効であったと考えます。

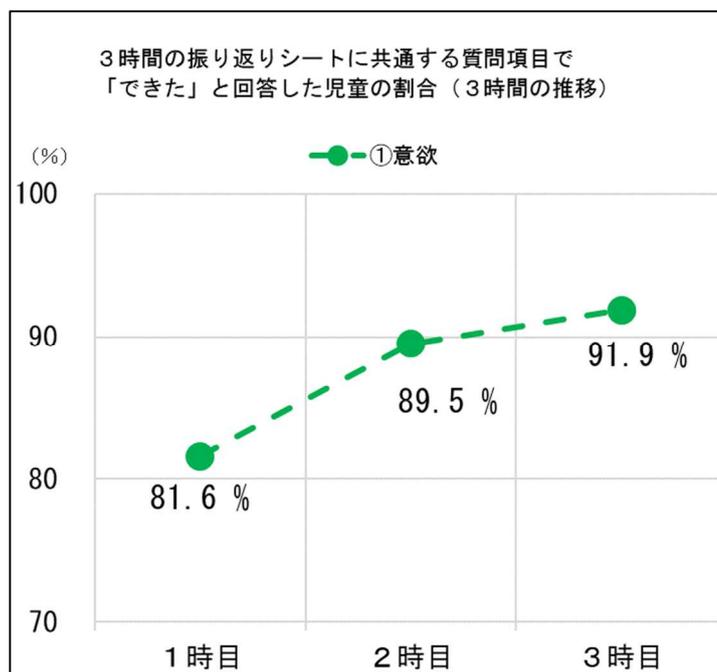


図6 共通する質問項目①についてのアンケート結果（振り返りシートより）

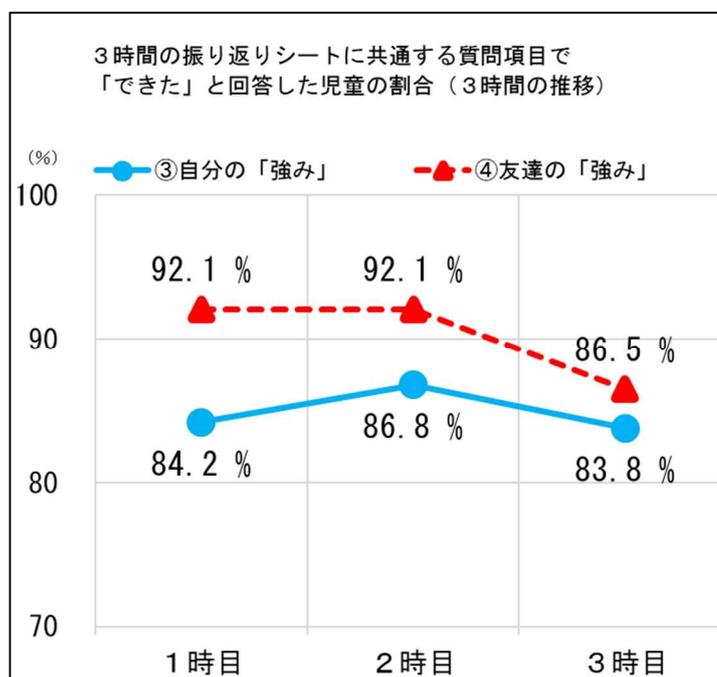


図7 共通する質問項目（③、④）についてのアンケート結果（振り返りシートより）